



統計でわかる！ Vol. 4 令和6年11月

九州の豚

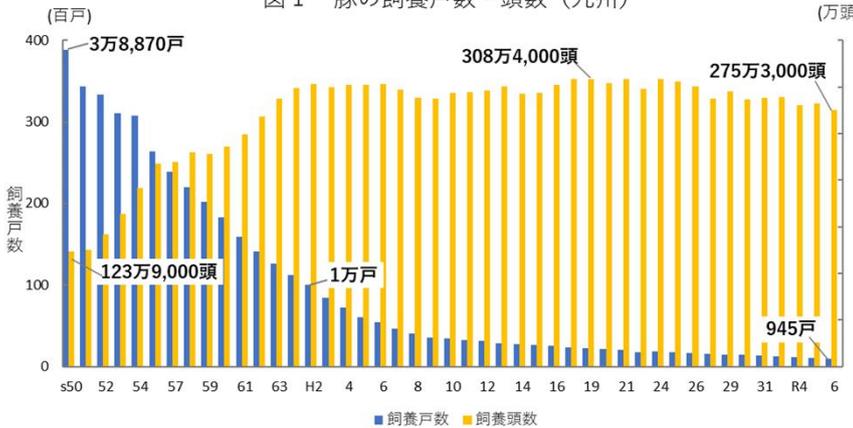


※SAFFは「Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries」を表現しています。

1 豚の飼養戸数・頭数の推移

九州における豚の飼養戸数は減少が続いており平成2年に1万戸、令和6年に945戸となった。一方、昭和50年に123万9,000頭だった飼養頭数は規模拡大が進展し、令和6年は275万3,000頭となった（ピークは、平成19年の308万4,000頭）。また、農業地域別に見た九州の飼養戸数、飼養頭数の割合は年々増加し、令和6年に30%台となっている。

図1 豚の飼養戸数・頭数（九州）



資料：農林水産省「畜産統計調査」
注：昭和55年は、データなし。平成17年以降、西暦の末尾が0と5の年は、農林業センサス実施年により調査を休止。

図2 豚の飼養戸数の割合（農業地域別）

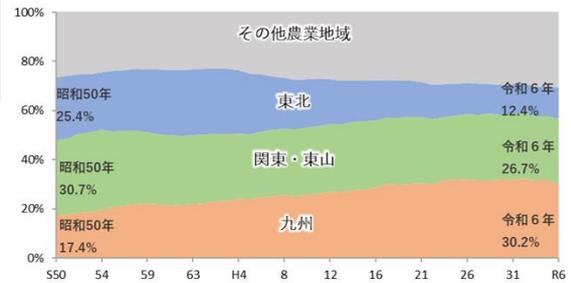
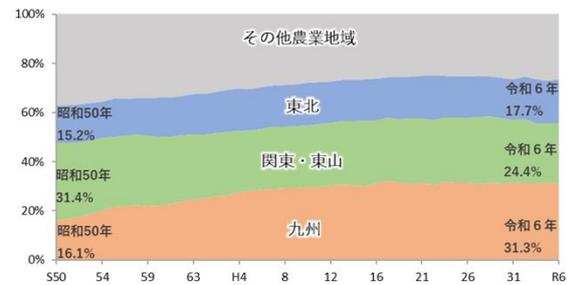


図3 豚の飼養頭数の割合（農業地域別）



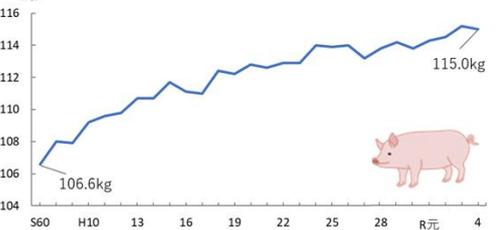
2 豚の経営動向

- 九州における令和4年の肥育豚1頭当たり全算入生産費は、4万3,900円で飼料費が約7割を占めている。また、肉質改良及び生産コストの低減を図るための増体性の向上により、販売豚の生体重が増加し単位当たり生産費の増加を抑制。
- 令和4年の1頭当たり所得は、飼料価格の高騰等により前年より78.4%減少し、1,080円となっている。

図4 肥育豚の全算入生産費（九州、1頭当たり）



図5 豚の販売時生体重の推移（全国）



資料：農林水産省「畜産物生産費」
注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

表1 養豚経営の収益性（九州）

単位：円

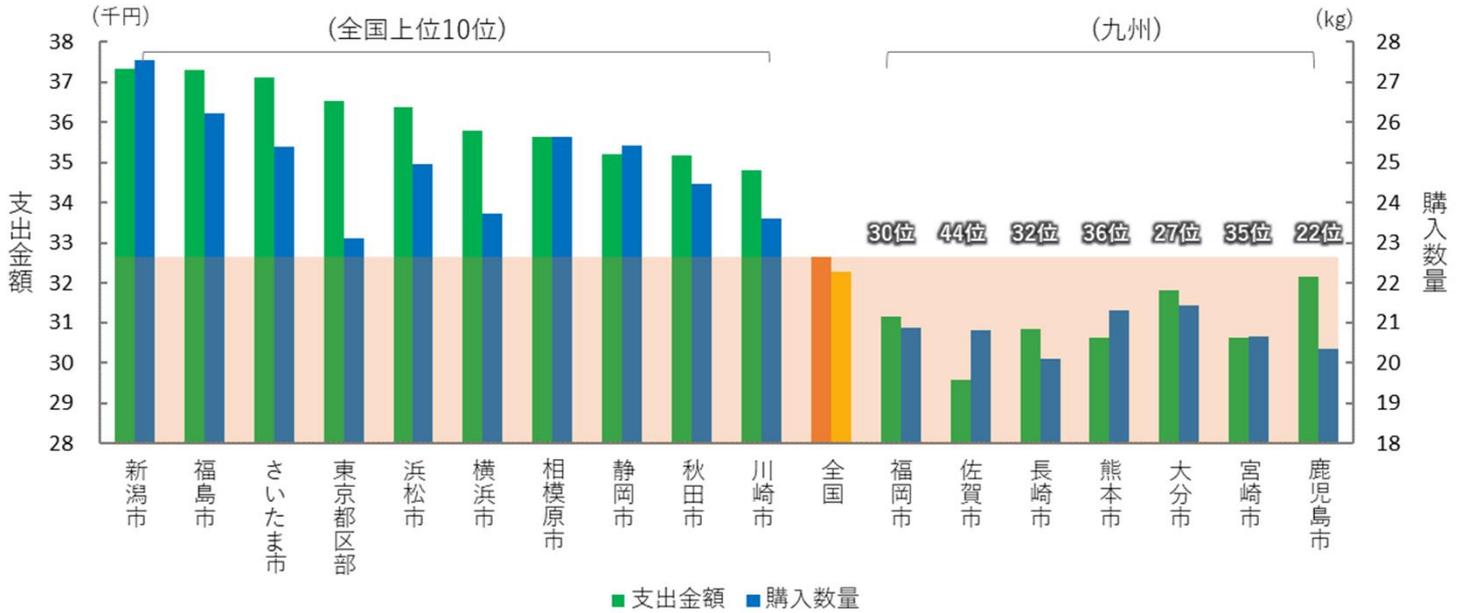
区分	平成15	20	25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4
肥育豚1頭当たり所得	9,243	4,216	5,309	8,897	7,265	6,912	10,409	8,477	7,592	10,302	4,993	1,080
①=②-③ (円)												
(対前年増減率%)	(▲5.4)	(▲26.3)	(44.9)	(67.6)	(▲18.3)	(▲4.9)	(50.6)	(▲18.6)	(▲10.4)	(35.7)	(▲51.5)	(▲78.4)
粗収益 (円) ②	32,681	36,809	35,571	41,419	39,831	38,784	41,086	38,605	39,035	41,172	40,129	41,394
生産費用(円) ③	23,438	32,593	30,262	32,522	32,566	31,872	30,677	30,128	31,443	30,870	35,136	40,314
販売頭数(頭)	875.8	1,105.0	1,136.4	1,092.7	1,121.5	1,316.7	1,121.2	1,210.6	1,146.7	1,051.1	1,368.0	1,447.5

資料：農林水産省「畜産物生産費」
注1：粗収益＝主産物＋副産物
注2：生産費用は生産費総額から家族労働費、自己資本利子、自作地代を控除した額

3 豚肉の消費動向

1世帯当たりの豚肉の消費を支出金額及び購入数量で見ると上位は、新潟市、福島市、首都圏などとなっており、豚の飼養頭数が最も多い九州地域の各県庁所在地は、22位から44位で下位となっている。

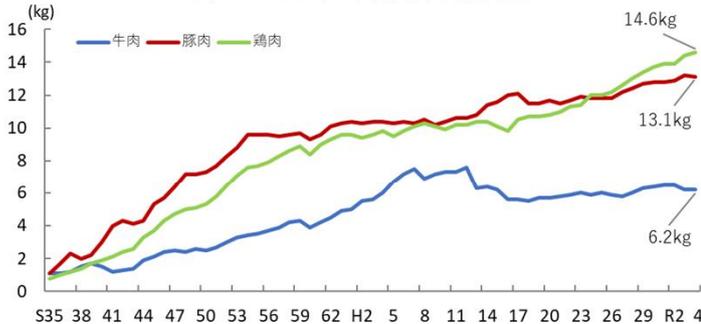
図6 豚肉の年間支出金額ランキング



資料：総務省統計局「家計調査結果」
 注1：2021年から2023年の平均支出金額の順位
 注2：二人以上の世帯、都道府県庁所在地及び政令指定都市別データ

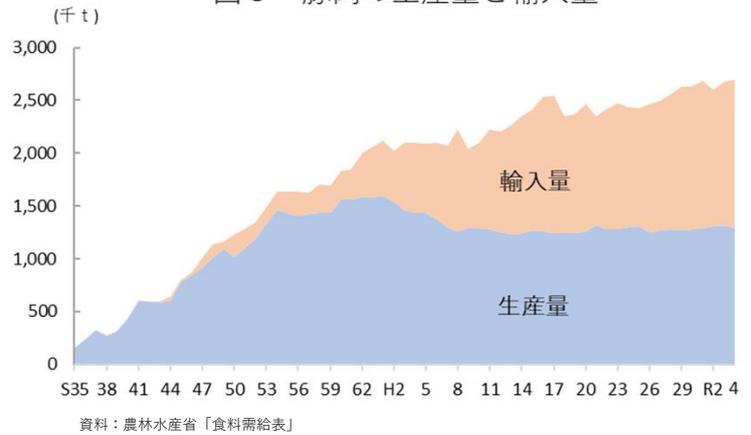
(参考) 食肉の消費動向

図7 一人当たり食肉年間消費量



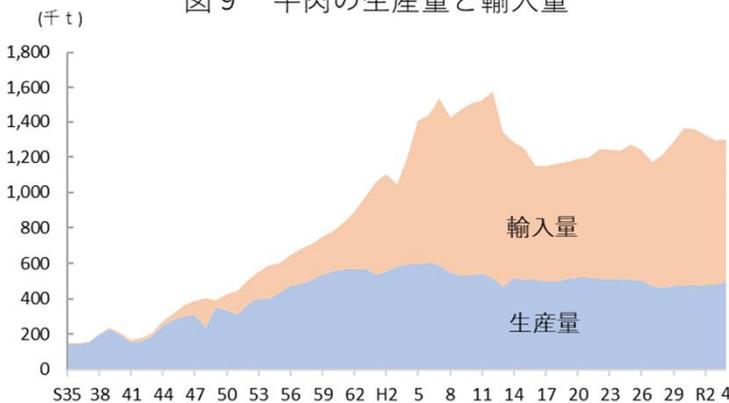
資料：農林水産省「食料需給表」
 注：消費量は、国内生産量、輸出入量、在庫の増減、人口等から算出された1人1年あたり供給純食料と同等とする。

図8 豚肉の生産量と輸入量



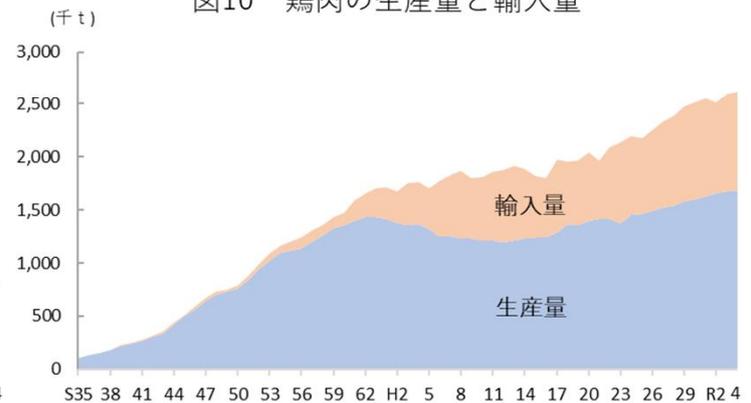
資料：農林水産省「食料需給表」

図9 牛肉の生産量と輸入量



資料：農林水産省「食料需給表」

図10 鶏肉の生産量と輸入量



資料：農林水産省「食料需給表」